

北九州市発達障害者支援地域協議会 主な検討課題（案）

【基本的視点】 ※ 平成30年度「アセスメントツール研究会」の議論を引継ぎ、更に発展

- 乳幼児期から成人後までのライフステージを通じて、①特性の「気づき」、②特性の「理解と評価」、③特性を踏まえた「手立て」、④次のライフステージへの「引継ぎ」を一貫して行うシステムを構築。
- 自分らしさを大切にしながら、身近な地域での自立した生活と社会参加を進める包括的支援の推進。

1 地域支援体制の構築（全ての年齢に共通する「支援の基盤づくり」の推進）

【検討課題1】 特性の気づき・正しい理解・支援（MSPA等アセスメントツールの活用）

①早期の気づき、特性評価につなぐ仕組み（健診医等との連携、問診、受診勧奨）

②評価の実施方法と評価結果の活用（評価実施機関の検討、評価者育成、情報管理と共有）

③特性理解と支援への反映（特性を踏まえた支援方針の作成と「手立て」の実施）

【検討課題2】 地域支援体制の構築（医療・子育て・教育・雇用・福祉・地域の連携）

④地域医療連携の推進（療育センターとかかりつけ医の情報共有、役割分担等）

⑤多職種連携の推進（情報共有、「手立て」の一貫性の確保、引継の強化）

⑥人材育成・市民啓発の強化（研修の体系化、支援の質の向上、自閉症啓発デー等）

2 ライフステージを通じた支援（年齢ごとの課題への対応）

【検討課題3】 生涯を通じた成長支援・社会参加と「地域での暮らし」の支援

⑦幼児期からの早期支援（子育て環境の整備・構造化・コミュニケーション支援等）

⑧学齢期児童生徒の支援（自己理解・ライフスキル、思春期の問題行動への対応）

⑨青年期から成人後の支援（就労支援、生活支援、引きこもり・二次障害への対応）

⑩家族支援の強化（相談カフェなど心理的ケア、家庭内の構造化、ペアレントトレーニングなど技術的支援）

⑪重度の障害があっても地域で暮らせる環境（顕著な問題行動、強度行動障害への対応強化、成人後の支援の場の確保、自立生活の支援）

※ 11の検討課題ごとに、①現状 ②課題 ③目指すべき将来の姿・成果指標 ④具体的取組（まず出来ること） ⑤今後の進め方 を整理する。